

# 令和元年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名 県立沼津東高等学校

※は行事実施後のアンケート、生徒・保護者のアンケート等による。

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	達成状況	自己評価	令和元年度の成果(○)と課題(●)
ア ◎「自治・利他・不屈」の精神を持つ生徒の育成	○自治会活動、部活動の充実 ○挨拶の励行、欠席・遅刻指導 ○PTAとの協働による交通指導 ○生徒指導への組織的対応	・自治会活動の満足度／90%以上※ ・ルールを守っている／90%以上※ ・部活動の満足度／90%以上※ ・交通事故件数／前年比3割減 ・欠席遅刻者数／1日3人以内 ・いじめ防止等への組織的対応	自治会活動満足度 96% ルールを守っている 98% 部活動満足度 93% ※「学校生活アンケート」の満足・やや満足を合わせた数 交通事故件数 前年比 68.8% いじめ防止対策委員会の実施件数 0件	C	○自治会に積極的に入ろうとする生徒が増え、目的をもって活動しようとしていた。 ○新たな同好会の立ち上げが2件あった。 ●集団生活に適應できない不登校生徒等も見られ、欠席数は増加した。 ●交通事故の件数は減ったが、一昨年に比べるとまだ多く、12月に自損事故などが多発した。 ●いじめに発展するような事例はなかったが、規範に欠けるような生徒による、行動の幼稚さが見られた。
	○保育・介護体験実習での学び ○奉仕活動の実践	・活動の満足度／95%以上※ ・1部活1ボランティアの実践	・保育実習4施設、介護実習4施設で実施	A	○介護施設に対するイメージがプラスに変わった生徒、介護施設の必要性の認識が深まった。 ○家庭科の授業で学んだ子どもたちとの接し方を実践することで理解を深めることができた。
	○自治会・香陵祭実行委員会を中心とした香陵祭の企画・運営	・達成感・満足度／100%※ ・行事等の中心となって活動する生徒の増加	・香陵祭 生徒満足度 97% ・係活動などに積極的に参加する生徒が増えた。特に部活動を引退した運動部員が協力的に動いた。	A	○四長・係長を中心に企画運営をスムーズに行うことができた。 ○天候による急な計画変更に対応できた。 ●新しい企画などあまり見られず、一層の創造性を発揮したい。
	○高原教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故／0件 ・参加者満足度／100%※	・事故0件。担当教員・生徒を中心とした入念な準備を行い、事故のない高原教室が実行できた。二年次部最大の行事に、「良い」、「まあまあ良い」の合計が96.6%の満足度であった。	A	○生徒主体の集いを通して、来年の香陵祭に向けて、生徒のリーダーとしての資質育成につながった。 ●安全を考慮した新たなコースの検討が必要である。
	○海浜教室 ・安全及び規律意識の涵養 ・質の高い泳力向上指導 ・生徒主導による「集い」の実施	・事故／0件 ・安全に留意して行動／100%※ ・積極的に「集い」を企画・運営・協力した生徒／100%※	・事故0件 生徒満足度 96% 「集い」満足度93% ・遠泳参加者全員が完泳 ・「集い」は、準備段階から生徒の積極的な参加が見られた。	A	○実施日程が早く、冷たさの残る中での実施となったが、水泳訓練、集いともに充実した行事とすることができた。 ○生徒主導の「集い」は、記念歌やFDで新たな試みも見られ、充実したものとなった。また、時間どりの運営ができた。
イ ◎「高い志」を持ち、その実現を目指す生徒の支援	○生徒の進路実現に対応した教育課程・行事予定・授業の編成 ○職業を知るセミナー、大学出張講義、医学科講演会、大学見学、研究機関訪問研修の実施 ○各種模試・講演会の実施	・教育課程の満足度／90%以上※ ・各種行事の満足度／95%以上※ ・学校行事評価の実施	・令和4年度以降の新教育課程の検討をNN10委員会、教育課程検討委員会で行った。 ・各種行事の満足度／95%以上 ・職業を知るセミナー、医学科講演会、東京大学訪問を通し、高い志を持つための支援を行うことができた。また、生徒の状況に応じ、様々な講演会を実施した。 ・新テストに対応した2年2月のマーク模試を実施した。	A	●台風のため大学出張講義が開催できなかったことが、残念であった。 ○令和4年度からの新教育課程の検討をNN10委員会、教育課程検討委員会で行った。県内では、本校は早目の対応ができています。
	○放課後講習、土曜講習、大学別校外模試の実施 ○進路講演会、大学説明会の実施	・5教科6・7科目型センター試験受験者／90%以上 ・国立大学現役合格者／160人以上 ・難関大・医学部進学者／40人以上	5教科6・7科目型センター試験受験者は88.5%であった。 国立現役合格者数 149人 難関大・医学部医学科 49人	B	○広く学ぶことの大切さを認識し、受験科目でもこれを実践する者は多い。 ●来年度の入試制度の変更に伴い、入学時から安全志向の学年であった。また、私立大学への進学を希望する生徒が増え、5教科6・7科目型の受験をやめず生徒が出た
	○進路資料室・自習室の環境整備 ○進路資料の充実	・進路資料室・自習室の利用者／1日50人以上	毎朝学校が開くと同時に進路室に向かい勉強する生徒が多かった。また、放課後も常に満員の状況であった。	A	○ルールを守り、緊張感のある中で効果的な利用ができた。 ●進路室以外に記念館の自習室利用を勧めたが、空調関係も含め、19:30までの管理には課題を残した。
ウ ◎生徒の自己肯定感の高揚、希望ある未来像形成への支援	○悩みを抱えた生徒の早期発見 ○生徒理解のための情報共有推進	・楽しく充実した生活を送っている／90%以上※ ・生徒情報を共有するシステムの充実	・楽しく充実した生活を送っている／93%(いじめの防止等対策委員会10月実施アンケート)昨年度より3パーセント上昇。 ・心身に問題を抱える生徒の増加に対して、家庭へのサポートを含めて対応した。週1回の定例ミーティングを25回実施し、情報の共有と対策の検討に努めた。 ・特別支援教育伝達講習、発達障害の理解と支援に向けた研修を全教員を対象に実施した。 ・個別の指導計画を作成し、生徒理解と指導の明確化を図った。	B	○定例ミーティングにより情報の共有と対処策の検討ができた。 ○生徒の問題把握に努め、多方の部署での連携を図りながら対応することができた。 ○スクールカウンセラーとの情報交換を密に行なった。 ●個別の指導計画を継続して作成し、学年・教科等で情報を共有しながら継続的に進めていく。
エ ◎学校情報の効果的発信、信頼される学校づくりの推進	○学校HPによる情報発信 ○PTA等との綿密な連携 ○創立120周年に向けた準備 ○保護者アンケートの実施	・PTA総会の参加率／70%以上 ・地区会の参加率／80%以上 ・保護者アンケート結果／4段階評価の全体平均3.50以上	・PTA総会への参加は588名(69%)であった。 ・地区会への参加は、例年通り高く、全ての地区で80%を越えた。 ・保護者対象アンケートの結果：平均3.31、昨年度と比較すると0.09ポイント低くなった。 ・学校情報をきめ細かく学校HPに掲載した。 ・同窓会等と連携をとり、120周年記念事業については具体的に動き始めた。	B	○PTA総会や地区会への出席率は、高い水準を維持している。 ●PTA行事である「卒業生の保護者と語る会」については、講師となる保護者の選定が難しい。 ●創立120周年に向け、学校側に関わる式典部会について、具体的検討を進める必要がある。
オ ◎図書館広報活動、朝読書、読書会の充実	○学年・教科等と連携した選書の質の向上、活用内容の高度化 ○読書会活性化	・図書館通信の発行 ・年間貸出し数／生徒6000冊以上、総計7500冊以上 ・県読書感想文コンクール上位入選	・図書館通信を毎月発行し、機会に応じた特集記事で、生徒の興味を喚起した。 ・貸出冊数1月7日現在で、約2100冊。集計方法を変更し、大幅に冊数を減らしてしまった。昨年度と同条件の算出方法でも2／3となり、対応が求められる。 ・読書感想文コンクールにおいて、2名入賞。	B	○図書館通信において読書に関する問題提起を行った。 ●貸出冊数の増加に向けて、教科・学年と連携し、探究活動や授業の中で積極的な活用を試みる。 ○朝読書や読書会を活発に行うことができた。 ○県読書感想文コンクール2名入賞
カ ◎英語コミュニケーション能力と国際感覚を備えた生徒の育成	○1年次生対象のワークショップ及びケンブリッジ英検の実施 ○BB研修（上記の優秀者が参加する米国研修）実施 ○短期・長期留学の紹介	・1年次生希望者数／40人 ・ワークショップ回数／15回 ・米国研修報告書の発行 ・国、県、民間のプログラム参加	・BB米国研修は、2回目となる現地高校訪問に向けて昨年以上に入念な準備をし、社会問題を取り上げたプレゼンやディスカッションを充実させて達成感を得た。研修生はリーダーとして校内外の大会にも積極的に参加した。 ・1年次生対象の英会話教室は、74名の希望者から40名を選抜し、ALTの尽力を得て、ほとんど欠席もなく15回のワークショップを実施した。 ・学校会場以外で実施される英語外部検定試験は多くの生徒が積極的に受検した。	A	○米国研修は、計画的な準備過程を経て満足度の高い成果を得られた。 ○グローバルで探究的な活動への取り組みに積極的な生徒を育成できた。 ○引率者の負担増と選考過程の明確化が検討され、同窓会と合意した。 ●財政面での継続的なサポートをお願いしたい。

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	達成状況	自己評価	令和元年度の成果(○)と課題(●)
キ	◎課題研究の充実と最先端の科学研究に学ぶ機会の確保	○設備・機材の計画的整備 ○科学未来館研修、電子顕微鏡実習、放射線実習、科学講演会の計画的実施 ○効果的な探究活動プログラムの研究	・課題研究達成度／5段階で4以上 ・研修満足度／5段階で4以上 ・実習満足度／5段階で4以上 ・科学講演会満足度／5段階で4以上 ・学校外探究活動への積極的参加	・研修・実習等の満足度は、未来館研修4.9、電子顕微鏡実習4.7、放射線実習4.8、科学講演会4.5だった。 ・エネルギー関連予算が付き、オートクレーブや遠心分離機を購入できた。（理科） ・科学の甲子園全国大会出場権獲得（3年連続）、化学グランプリ全国大会出場（銀賞）他各種（物理・地学・数学・地理）オリンピックに参加し入賞者も出た。 ・静大、遺伝研、JAMSTEC、AOIPARC他と連携し探究活動を実施した。	A	○課題研究では、遺伝研・静大等と連携することにより主体的・自主的に探究活動を行うことができた。 ○最先端の科学研究を行う研究室を訪れたり、井町寛之氏（JAMSTEC）はじめ多くの研究者にお話を伺うことができた。 ○科学の甲子園静岡県3連覇を始め、生徒が積極的に学校外の大会に挑戦している。 ●研究発表等に使用するパソコン等が老朽化しているため、計画的に更新する必要がある。
ク	◎生徒の学びを深める教職員研修の充実	○ICTを活用した授業方法の研究 ○沼東評価規準の研究 ○教育情勢や進路に関する情報の提供 ○大学入試改革への対応	・全教員による授業公開 ・学習評価の研究と実践事例作成 ・研修報告や進路情報資料の配布／常時 ・学習履歴DBの構築	・プロジェクトチームを中心とし、学習評価に重点を置いた授業研究を行い、それに基づいた公開授業を実施した。 ・人権や生徒理解に関する校内研修を実施した。 ・新規に導入されたICT機器の利用についての研修をおこなった。 ・県外の学校を訪問し、探究学習や授業評価について調査し、校内で報告・共有した。 ・11・12月の新入試制度の変更に伴い、様々な研究会に出席するなどして、情報収集を迅速に行った。	A	○プロジェクトチームを中心とした授業研究の実施 ○人権や生徒相談に関する校内研修の実施 ●普通教室で常時ネットワークが利用できるよう常設の無線LAN環境を整備する必要がある。 ●ICT機器の授業利用を推進していく際、各教科の専門的な知識・理解も必要になるため、各教科の代表で構成したICT機器推進チームを作ることを検討した方がよい。
ケ	◎倫理観と危機管理意識の高い教職員集団の維持・向上 ◎健康・安全で働き方を意識した職場環境づくり	○コンプライアンス研修の実施 ○危機管理に関する訓練の実施 ○定期的な健康診断の実施 ○業務のスクラップ&ビルドの推進 ○働き方を考える雰囲気づくり	・教職員の不祥事根絶 ・救急講習等の実施 ・校外防災訓練参加率の向上 ・職員健康診断受診率／100% ・業務時間の客観的把握の推進 ・定時退勤の励行	コンプライアンスに関する研修は定期的を実施した。 郊外防災訓練生徒参加率87.6%（昨年度79.7%） 職員参加率52.9% 健康診断受診率100%	B	○職員の定期的なコンプライアンス研修は機能した。 ●交通安全に関するeラーニングは、配信時期が遅れるなど、実施に困難が多かった。 ●学校定時退勤日を設けた（月曜日）が、部活動の休養日が部によって異なるため、学校で統一することが難しい。また、依然として超過勤務の教員がいる。 ○防災マニュアルと危機管理マニュアルの改訂、外部講師による救命講座の実施を通じ、危機管理の充実を図った。 ●検診後の受診が速やかに行われるよう意識を高める必要がある。 ●防災用品の保管場所の確保が必要である。